

今年初めの海浜美化清掃活動 地元の人含め150人が参加 今回から漂着物の分類始まる

春の陽気が浜辺一帯に広がる石狩市浜益地区川下公園海岸で5月17日にNPO法人北海道海浜美化をすすめる会と石狩市浜益支所が共催する海浜美化活動が行われました。この活動は、本来はゴールデンウィーク前の4月26日の行う予定でしたが、その日はあいにく曇（みぞれ）が降り、風も強く寒いということで、残念ながら延期しての開催となりました。

今回の海浜清掃での注目すべきことは、学生さんの参加が非常に多かったことが挙げられます。まず一つは、札幌学院大学がバスを提供して下さいました。奥谷浩一教授と学生さんが参加して下さいました。また、もう一つの新しい動きとして漂着物の分類をすることになったということです。ビーチコーミングの第一人者である北海道教育大学の鈴木明彦教授も自ら参加して下さいまして、ビーチコーミングの方法や意義などについて具体的に教えて下さいました。今後は、北海道の海岸で美化活動を行うときは、ビーチコーミングも取り入れながら、データを取って継続して行っていきたいと思います。そういう意味では、第一回目の試みでした。それから、今回は北海学園大学のボランティアグループであるPコネクションのメンバーが16人ほど参加して下さいまして、非常に活気にあふれた美化活動になりました。



尾崎副会長の
開会あいさつ



北海道教育大学 鈴木教授



札幌学院大学 奥谷教授



漂着物の分類調査

小型トラックが2台、ゴミ回収車が1台が満杯に

川下公園海岸は石狩管内でも有数の海水浴場ですが、海開き前とあってゴミの量は非常に多く、韓国など外国から漂着したポリタンクやペットボトル、そして漁具、プラスチックなど非常に多く目につきました。集めたごみは、プラスチック系のゴミが400kg、それ以外のゴミが350kgと集まり、小型トラックが2台、ゴミ回収車が1台が満杯になりました。

この日はバス以外に現地に直接行かれた方、マイクロバスで訪れた手稲西子供会の子供たちのグループなど120人が札幌から参加し、地元の観光協会やボランティアグループ30人が参加しました。この日の模様は石狩市のホームページのテレビの欄でも紹介されるということでした。

ごみ拾いの後は、皆でカニ取りを行いました。ちょっと水温が低かったせいか、入れ食いというわけにはいきませんでした。みんな真剣に岩の間を見て夢中になっていました。そんな時思いもかけず、キタキツネがやってきて、私たちのごみ拾いを慰労してくれたようです。カニ取りの後は、浜益温泉に浸かり、午後5時過ぎに札幌に帰ってきました。

帰る途中のバスの中で、標語の発表会をしました。みんな力作ぞろいでしたが、その中で3つほど紹介します。「ごみ拾い 沢山あって 大変だ」「浜美化で 未来へ話す 澄んだ海」「ごみ拾い 捨てているのはヒトのエゴ」などがありました。近いうちに、参加者の作品を載せたいと思います。



みんなで楽しくカニ取りをしました

